

令和6年(2024年)6月号

令和6年6月3日

ハノイ日本人学校 学校便り

こころの道

Nhan hieu Thông minh Khỏe mạnh



やさしく  
ニャンハウ

かしこく  
トンミン

たくましく  
ホーエマイン



校長 佐藤之保

## 「折り合い」

学校だよりの5月号では、「**他者は仲間である**」という考え方と自分に対する「**一定の自信**」の必要性をお話ししました。6月号では、関連して、「折り合い」について考えてみたいと思います。



昔ある心理学者が、人間の基本的な欲求の一つに「所属欲求」をあげました。人は、共同体に所属する欲求をもっているということです。そう考えると「共感してほしい」とか「一緒に感動したい」などという欲求は自然なことで、人が幸せを感じるために大切なことであるということになります。これは、皆さんの生活経験を振り返っていただければ容易に想像できることでもあるのではないのでしょうか。

そして他方では、人は、家族であっても違う人生を歩み、経験も違えば学ぶ内容も異なり、この世に全く同じ人間はいないという現実もあります。「違うところがあるのが当たり前」なのです。

こんな両方のことを踏まえて、人が幸せを感じていくには、どうしたらいいのでしょうか？

「一緒にいて落ち着く」「気が合う」等の一部でも似たものを感じる仲間と一緒にグループを作って一緒にいる、という工夫も一つの方法だと思います。そしてそれは、大人も子供も多くの社会で自然にあることだと思います。これはとても大切なことでもあります。

ただ、一旦同じグループになった相手でも違うところが気になってしまう場合もありますし、グループごとに利害が対立する場合等もありますし、社会全体を考えれば、グループ外の人々のことを考えることもとても大切なことです。

そして、他者と意見が対立した場合や状況が自分の思う通りにならない場合に、大切なのは「折り合い」をつける、ということです。

「折り合い」をつけるには、「自分や相手を認めてある程度受け入れること」と「自分への一定の自信があること」という精神性の土台に立って、0か100ではなく、グラデーションでものごとを考える「思考力」が必要になります。「自分も相手も大切にする」ということです。

今の社会情勢を見ていると、0か100かというような考え方を、多くの場面で見受ける気がします。そのような状況だと、「相手の事情」を理解し、「折り合い」をつけていくということが難しくなり、対立を生む結果にもなってしまいます。

子供達には、多様な人と共に、「折り合い」をつけながら、自分も相手も大切に、調和を図っていきける人になってほしいと願います。

### 宿泊行事について

本校では、小学部5学年・6学年、中学部1学年・2学年において、宿泊行事を実施しています。5月に中学部1学年を終え、6月には中学部2学年及び小学部6学年の実施の予定です。11月には小学部5学年の実施の予定です。

この宿泊行事は、校内の行事でも特別な意義があります。保護者から離れ、普段は家庭で過ごしている時間を、友達と過ごすこととなります。自分の生活を自分で管理して、他者と時間を合わせたり、協力して行動する場面が多々発生してきます。また一方では、普段会っている友達同士でも、新たな発見があったり、普段はあまり接点がない人ともつながりを持つきっかけが生まれるかもしれません。

児童生徒にとって、実り多い宿泊行事になるように、教職員一同力を尽くしていきます。

御協力をお願い致します。